

# SOHOつちうらが始動

## 起業家6人が入居

自治体が支援施設

IT(情報通信技術)を活用した起業家を育成



「SOHOつちうら」は、土浦市は三丁目505一階の空き店舗に支援施設「SOHOつちうら」を開設、開所式を開いた。六区画の募集に対し、三倍以上の二十人が応募、審査で六人が選ばれ、同日から業務を本格的にスタートさせた。

インターネットなどITを活用したSOHO(スモール・オフィス・ホーム・オフィス)や小事務所などインターネットなどを活用して行う「仕事」を支援、育成するため、中心市街地の空き

店舗対策を兼ねて事業化された。二年間の入居後、市内で起業・独立することを目指す。産業支援施設などをSOHO向けに貸し出しているケースはほかにもあるが、自治体が空き店舗を活用して支援施設を開設するのは県内でも初の試み。施設は面積百一十平方メートル、二十四時間利用できる一室約六平方メートルのSOHOオフィス六室のほか、共用スペースには一般の人でも利用できるパソコンを二台設置。光ファイバーによる毎秒百メガビットの高速通信環境を備えている。管理は土浦商工会議所に委託した。入居が決まったのは、

総務、経理の受託、パソコンスクールなど▽つちうらネットプレス(高橋仁美社長) 地域ポータルサイトの運営、ホームページ作成など▽三協中国ビジネスのコンサルテーション▽同市富士崎の折田藤男さん▽官公庁のシステム構築や運用支援▽ワールド翻訳サービス(英語、中国語、韓国語、独語などの翻訳、英文校閲、テプリライイト▽電脳部(河合通之社長) 竹炭を利用した環境改善や水質浄化の六人。市外は三人で、中国人留学生も一人いる。

### 起業家らにブース貸し出し「SOHOつちうら」開設



一般に開放されている共有スペース

SOHO(スモールオフィス・ホームオフィス)の事業者を支援、育成する施設「SOHOつちうら」(土浦市川口一丁目)が3日、オープンした。同日、開所式があり、同市が、市内で起業や独

立を考えている人に対し、空き店舗を利用したブースを低料金で貸し出す試みで、応募した20人のうち、6人が選ばれた。この日、開所式があり、同市を紹介するホームページを立ち上げた。【須田桃子】

「SOHOつちうら」開所式で入居者六人を代表して抱負を述べる高橋さん(土浦市川口一丁目のモール505

高橋さんは今月いっぱい常総学院を退職。高校では国語を教えることもにチャリター部顧問も務めたが、「だんだんさびしくなる土浦のまちの活性化のため何かしたい」と昨年五月に会社を立ち上げた。

H15.3.4(火) 毎日新聞